

10月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

令和5年10月のD I 値は8指標中、「売上高」「収益状況」「販売価格」「資金繰り」の4指標が上昇し、「景況」は横這い。「取引条件」「設備操業度」「雇用人員」の3指標が下落となった。

2. 県内中小企業の景気の現状

先月に引き続き、出荷量の減少、需要の落ち込み、またエネルギーコストや資材高騰等で多くの事業者が苦慮しているようだ。売上が上がっても収益の増加には繋がっておらず、先行きは不透明である。また、人材不足が大きな課題としてある中、賃上げや労働時間の短縮への取り組みなど社会的な要求への対応も求められ、今後経営者の高齢化や後継者の不在により事業の継続を断念する事業者の増加も危惧される。

国際情勢の緊迫化などもあり厳しい状況ではあるが、新店舗のオープンやイベントの成功等、景気回復の兆しを感じる明るい報告も散見された。また今月も自動車登録状況において、全ての部門において前年度を上回った月となり、国内新車販売台数に関しては14か月連続プラスとなった。

経済報告では前月同様、県内の全国共に景気は持ち直しており、先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果により緩やかな回復が続くことが期待される。しかし海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっており、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

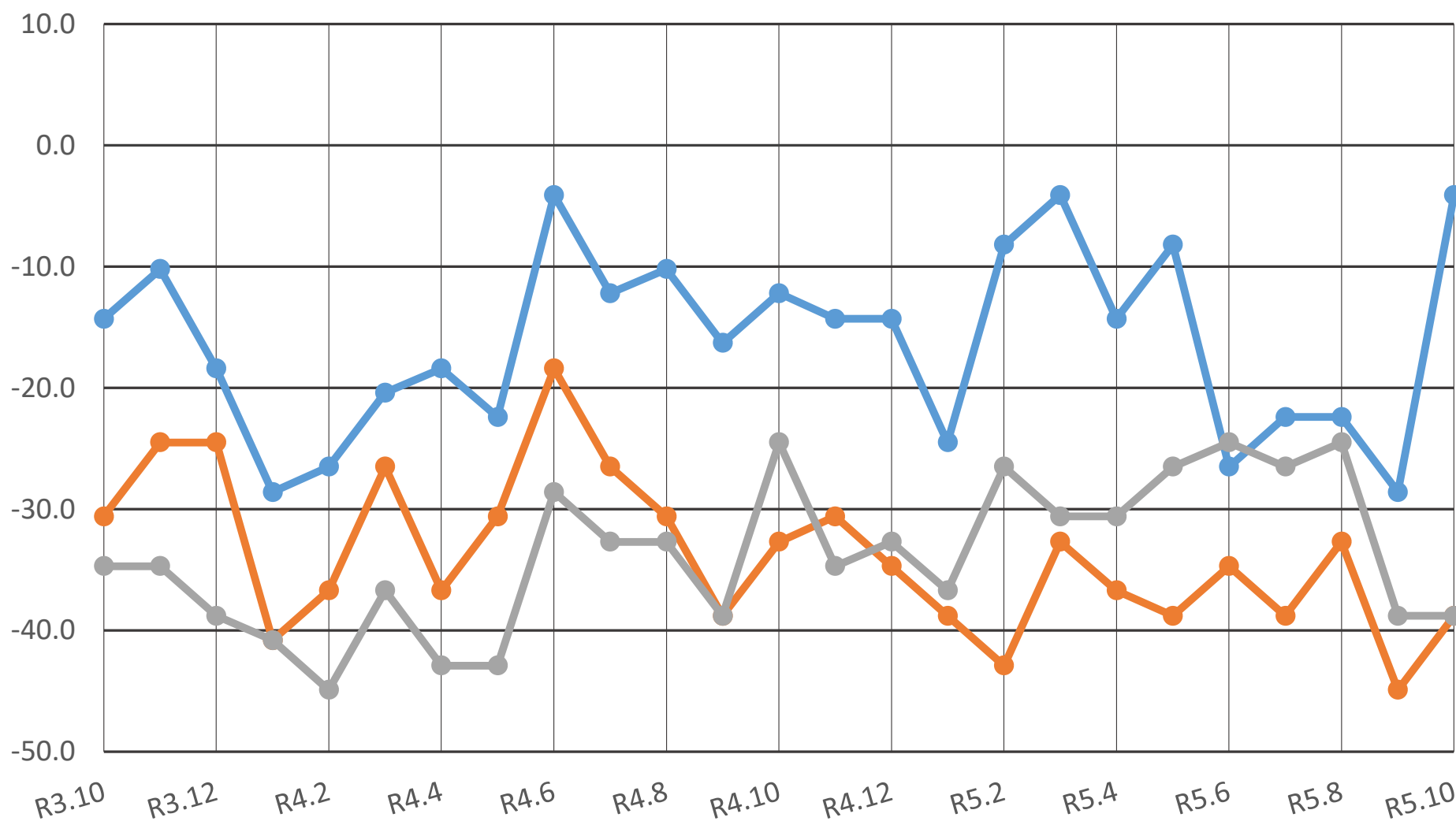
最近の主要指標の前年同月比D I の推移

	R4 10月	11月	12月	R5 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	前月比 増 減
景 況	-24.5	-34.7	-32.7	-36.7	-26.5	-30.6	-30.6	-26.5	-24.5	-26.5	-24.5	-38.8	-38.8	0.0
売 上 高	-12.2	-14.3	-14.3	-24.5	-8.2	-4.1	-14.3	-8.2	-26.5	-22.4	-22.4	-28.6	-4.1	24.5
収 益 状 況	-32.7	-30.6	-34.7	-38.8	-46.9	-32.7	-36.7	-38.8	-34.7	-38.8	-32.7	-44.9	-38.8	6.1
販 売 価 格	24.5	24.5	26.5	18.4	26.5	32.7	36.7	32.7	36.7	30.6	30.6	32.7	42.9	10.2
取 引 条 件	-16.3	-16.3	-18.4	-18.4	-22.4	-14.3	-10.2	-16.3	-18.4	-10.2	-10.2	-8.2	-10.2	-2.0
資 金 繰 り	-10.2	-14.3	-16.3	-16.3	-20.4	-16.3	-18.4	-22.4	-18.4	-20.4	-20.4	-30.6	-28.6	2.0
設 備 操 業 度	-8.2	-6.1	-12.2	-14.3	-14.3	-6.1	-8.2	-12.2	-10.2	-8.2	-8.2	0.0	-2.0	-2.0
雇 用 人 員	-6.1	-8.2	-2.0	-10.2	-6.1	-4.1	2.0	-4.1	-2.0	8.2	-2.0	0.0	-4.1	-4.1

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

前年同月比DIの推移

売上高 収益状況 景況



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味噌・前年同月比で味噌の生産量は98.3%、出荷量は105.8%、前月比で味噌の生産量は100.8%、出荷量は89.7%であった。3ヶ月続けて増加した出荷量も今月は減少となったが、通期では前年を上回っており、今後冬場の需要増に期待したい。
2. 漬物・資材高騰の影響が大きく、利益を大きく圧迫している。外国人技能実習生の入国が遅れている企業もあり人員のやり繰りに苦悩している。

<繊維・同製品>

3. 縫製・少子化問題はアパレル業界以外にも、社会全体に大きく影響することですが、若い層が減り高齢層が増えるという人口構造を踏まえて、新しいビジネスモデルや戦略を考えることが必要です。アパレルの市場規模が縮小していくことは覚悟しておかなければいけませんが、その中でも消費者のニーズを見極め、過去の概念や実績に縛られすぎず、柔軟に変化していかなければ生き残れないと考えます。
4. 縫製・生産数量は、受注数が読めない状況下である。流動的で対応に苦慮している。諸経費も高値止まりで製造原価が上昇している。

<木材・木製品>

5. 木材・9月半期 決算時の在庫調整の反動。大型製材火事の影響による仮需要があったか。
6. 製材・住宅着工は相変わらず伸び悩み、製品の動きが極端に悪い。他の建築資材は高騰する一方で木材価格は低迷している。関東の大手外材製材の火災で米松製品が品薄で価格が少し強くなっている。その米松の一部代替材（垂木・根太等）として国産スギ、ヒノキが使われている。スギ、ヒノキのKD（乾燥材）価格は横ばいだが、スギの未乾燥材は弱い。
7. 製材・引き合いが低調で工場稼働についても低調である。
8. 木材・10月についての木材は、引き続き需要量が落ち込んだ模様です。しかしながら、10月22日(日)とくしま木づかいフェアで木工教室を4年ぶりに開催しましたところ、本会場より多くの来場者が訪れ木工を楽しんで帰られました。木材の人気はまだまだ廃れたもんじゃありません。木材流通業界、頑張ってまいりたいと存じます。

<印 刷>

9. 印 刷・10月の売り上げは、ここ数年回復してきているとはいえコロナ前（令和元年）と比べると10%弱の落ち込みである。ただ、この秋からは慰安旅行を復活させている会社が多いと聞いている。まだまだ日帰りや一泊が多いようだが、少しずつ回復してきている模様だ。様々なイベントや催しを計画し、挑戦するところも出てきている。景気の上向き気配を感じられる。このまま年末年始に向けて、一気に気運をあげていかなければならない。
10. 印 刷・コロナ以前は当月は比較的例年売上げ収益ともに安定して好調な月の一つであったが、紙離れの影響もあり、なかなか望むような結果にはならなかった。数カ月こういう状態が続いているが、何とか打破するための行動、自社の強み生かして少しでも業態変革を行っていかないと、先は増々厳しくなっていくだろう。

<窯業・土石製品>

11. 生 コ ン・10月の出荷量は昨年同月と比べて約4%減少。今年度の総出荷量は過去最低だった昨年度の出荷量を約10%~15%下回ることが予想され、来年度の出荷予想も今年度より減少すると考えると再び価格の見直しを検討しないといけなくなりそうだ。
12. 生 コ ン・10月の出荷数量は、対前年同月比12%減であった。要因としては、民需において新規着工が減少している。官公需においても一部四国横断道路の工事があるものの、新規着工工事の減少が影響している。工場での収益については、価格引き上げにも関わらず大幅な出荷数量の減少により、経営環境は依然として厳しい。

<鉄鋼・金属>

13. 鉄 鋼・業況感は、やや持ち直しの傾向にはあるが、概ね横ばいの状況で推移しており大きな変化はない。原材料やエネルギー価格の高騰などから、価格及び売上高は高くはなっているが、収益の増加にはつながっていないのが現状である。
14. ス テ ン レ ス・引き続き、国内外ともに設備投資も含め企業活動は持ち直してきている。生産面では、電子部品等の納期遅れや、物価上昇に伴うコストUPの状況が継続しており、様々な対策の実施をしている状況である。全体的には改善傾向ではあるが、海外景気の下振れや中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動の影響など懸念材料もあり、まだまだ先行き不透明感は継続している。

<一般機器>

15. 機 械 金 属・一部に景況感の持ち直しの動きも見られるものの、原材料費、労務費、エネルギーコストの高騰に加え、諸々の国際情勢の緊迫化など、更なる不安定要因により、部品の調達難、受注状況の悪化が懸念され、引き続き、先行きが見通せない不透明な経営環境に大きな変化は見られない。また、需要の停滞をはじめ、従業員の確保難などが、依然として、経営上困難な課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸 売 業>

16. 食 糧 卸・相場が定まらず、産地品種によっては売り物が出ない状況。誠にやりにくい。

<小 売 業>

17. ショッピングセンター・前年対比は売上100.6%、客数99.2%という結果です。業種別には、身の回り品が105.0%、食品が104.7%、住居関連が97.6%、衣料品が92.4%となっていますが、身の回りと食品は7月より4ヵ月間好調を持続しています。特に核店舗であるSM食品店は4月以来ずっと100%を超えており、客数と合わせコロナ禍以前の状態に戻りつつあります。一方衣料品は先月90%を割りましたが、わずかに回復しています。
18. 電 気 機 器・全体的に商品の動きが鈍い。特に映像関連商品が低調である。積極的な販促策(展示会等)を実施する必要がある。
19. 各種商品小売業・今月はクルーズ船の寄港が数回あり売上げは半数ほどの店舗が前年を上回り、客数はほとんどの店舗が前年を下回る厳しい結果となった。
20. 畳 小 売 業・工務店関係納品は増加した。飲食店、宿泊関係は少なく、一般家庭の畳替えは昨年並み。台風などの被害も少なかったので平和。

<商 店 街>

21. 鳴 門 市・京都大学、立命館大学の皆様と街づくりワークショップの最終回がありました。今回できた資料を今後どのように発展させていくか大事なところです。ワークショップに参加頂けた近隣の店から数店賛助会員が増える予定です。
22. 徳 島 市・新しく居酒屋が1店舗オープンした。組合内の空き店舗を見に訪れる人もあり、今後も新規出店者が増える可能性がある。
23. 徳 島 市・残暑が厳しかったうえ11月に入っても夏日があったり、コートなどの動きが鈍い。

<サービス業>

24. 自動車整備業・10月度の自動車登録状況は、すべての部門において前年度を上回った。登録車の販売台数は、対前年度比約25%増、軽自動車も新車・中古車ともに前年度を超え、全体では13.2%増という結果となった。10月の国内新車販売台数に関しては、全国的に見ても前年の同じ月に比べて二桁増、14カ月連続のプラスとなったそう。前月に続き新車販売が回復しているものの、挽回生産は当初計画には及んでおらず、当面生産の遅れで販売が制約を受けそう。
25. 土木建築業・前年同月と比べて売上高、業界の景況は変わらず、収益状況は悪化している。設計人数通りでは、担当技術員の欠勤等により、設計人員(日数)をクリア出来なくなる積算上の問題や、業務繁多により仕事量を分散させるため設計人員を追加。また、組合事務所と官内作業室間でのテレワーク・リモートでの業務ため、リモート用のPCを追加し、事務所経費が増加。河川巡視業務においても、正規技術員数名雇用予定。6月末より別棟での業務および、自社事務所での業務も開始した。11月はじめからは新庁舎での作業となる。自社での作業となるため、来年度から経費率増加が予想される。
26. ビル管理・業界全体で10月分は前年同期と比べ、ホテル現場を除き、大きな変化はありません。しかしながら、ここ数年の人件費の急激な上昇、資機材費の値上げ等が継続しており、厳しい経営状況である。また経営の圧迫については契約先に理解を求める運動を粘り強く行っているところである。医療施設や高齢者利用施設においては、インフルエンザやコロナ陽性者が高止まりしており、細心の注意を払いながら業務を遂行している。これらの課題の対応に加えて従業員の補填活動も大きな経営課題として取り組んでいるところである。
27. 旅行業・行楽シーズンということもあり、旅行需要は増加している。バスの新料金の影響が今後どのように出てくるのか等不安要素はある。また、大都市を中心にホテル、旅館の値段が上がり、販売価格も上昇しています。

<建設業>

28. 鉄骨・鉄筋工事業・Hグレードは春までの仕事を持っているが、それ以外は年明けまでが多い。4月以降に不安感がある。材料代の高騰に収まりの心配が見られるが、外注は値上がりが続く。大手、中堅、地元のゼネコンで加工単価のひらきがあり、価格高騰を加工単価に反映させていくのが課題。図面承認の遅れから工程がひっ迫するところも出ている。
29. 建設業・10月の単月では、対前年比の発注件数及び請負額で国、徳島県及び市町村の工事は増加している。今年の累計(10月末)の請負額では、7.4%増となっており、徳島県発注工事は減少しているが、他の公共団体は増加している。
30. 板金工事業・9月までの上棟数が10月になってから急に減少している。新築リフォームともに悪化の様子。
31. 電気工事業・新築住宅口数は123件で、昨年同月比24.1%となった。

<運 輸 業>

32. 貨 物 運 送 業・全般に今月も荷動きは上向き傾向に推移。業界の関心毎は24年問題で、運転手不足で人件費は増加・運賃の増額は厳しく、一方、運転手は拘束時間減による給料の減少と労使双方が大変な状況に直面してくる。県外では倒産をした業者があると聴く。今後どうなっていくのか。
33. 貨 物 運 送 業・燃料油価格の激変緩和措置の効果があった。10月は高止まりだが9月に比べ少し落ち着いた。ドライバーが不足し、募集をかけてもなかなか集まらないとなげく事業者の声が多い。